令和５年度　学校教育自己診断について

令和５年１２月末に実施しました学校教育自己診断の結果について、今年度の学校教育計画の重点目標①～③に照らし合わせ、報告させていただきます。なお、アンケートについては、４段階で実施し、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答について、今年度と昨年度の結果を数値化しています。

重点目標①　安全安心な学校をつくる。

※（　）内は昨年度からの比較です。

生徒

「担任の先生は私たちの悩みや相談に応じてくれる。」　87%　（+1 ポイント）

「担任の先生以外にも相談できる先生がいる。」　77%　（+７ポイント）

保護者

「学校は、家庭との連絡をきめ細かく行っている。」　78%　（−5 ポイント）

「先生は、子どもの間違った行動を厳しく指導している。」　83%　（+２ポイント）

「先生は、子どもをよく理解しようと努めている。」　91%　（−1 ポイント）

子どもたちの健やかな成長、人格の形成を支援していくために、安全安心な学校づくりは学校が永続的に掲げる目標です。生徒が学校生活で抱える悩みに対し、担任以外にも学校全体としてのサポート体制が向上したことは成果だと考えられます。反面、家庭に対する連絡がないこと、遅れてしまうことで、保護者の方にとって心配事・不安事を抱えさせてしまっていることについては、学校として改善しなければならない点です。家庭と学校がともに情報を共有することで、子どもの課題や成長について一緒に解決を図ったり、喜んだりできる関係性を構築できるよう努力していきたいと考えています。

重点目標②　授業改善を進める。

「分かりやすい授業が多い」　生徒　82%　（+3 ポイント）

保護者 73%　（+4 ポイント）

◇　新規の設問

「授業では課題に対して自ら学ぼうとしている。」　生徒　86%

「定期テストなどの時、計画を立て、目標に向かって勉強を進めようとしている。」　生徒　77%

「自分なりの勉強の仕方が分かっている（見つけようとしている）」　生徒　78%

本校では、年間を通してすべての教科で研究授業を実施しており、授業改善のための研修を進めています。GIGA スクール構想の推進による iPAD の活用も試行錯誤しながら進めてきており、映像や写真による教材の視覚化が授業のわかりやすさにつながっていると考えられます。ただ、デジタル化の利便性と学習効果についての相関については、検証を進めていく必要があると考えています。

また、これからの社会を生き抜く子どもたちに必要な「主体性」をはかるべく、３つの新規の設問を追加しました。授業では主体的に課題に取り組める生徒が比較的多いという結果ですが、家庭学習においては見通しをもって学習を進められる生徒が多くないことが分かります。学校ではテスト期間中においては、学習計画表を作成するよう指導し、提出物の一環として点検指導をしています。今後も、計画作成の意義や必要性についての理解を深めさせるとともに、必要に応じて学習者にあった使い勝手の良い計画表への改善も進めてまいります。

重点目標③　生徒の「自治」の力を高める。

「私は校則を守っている。」　生徒　94%　（+2 ポイント）

「体育大会や合唱コンクールなどの学校行事に積極的に参加している。」　生徒　94%　（+2 ポイント）

保護者 91%　（±0）

◇　新規の設問

「生徒会活動、委員会活動、係活動などに積極的に取り組んでいる。」　生徒 86%　保護者 80%

学校行事は、望ましい人間関係の形成や、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育むために、とても重要であると考えています。昨年度に引き続き、高い肯定的な回答から、子どもたちは楽しみながら学校行事に取り組めていることが分かります。子どものみならず、保護者や地域の方に感動していただけるよう、今後もよりよい学校行事を企画運営していきたいと考えています。

また、学校づくりを教師だけの課題とせず、生徒の自主的な活動としての意識を広げていくことで、子どもたちのための学校づくりを進めていきたいと考えています。いろいろな活動がありますが、そこに魅力を感じ、意欲をもって参加できる子どもたちが増えていくよう、環境を整えていきたいと思います。